

事務事業名	水処理センター施設改築事業			担当	建設部 下水道課 水処理センター		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり		電話番号	0285 - 82 - 7313		
施策名	2	下水道事業の推進		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	下水道法				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）		
予算科目	9.公共下水道事業特別会計	1.公共下水道	3建設費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（平成19年度～平成34年度）		
事業概要	都市の安全・安心を確保するために、昭和58年3月供用開始の真岡水処理センターの改築（更新・改良）を行う。事業内容は、施設・設備の調査を行い長寿命化計画を策定し、国の補助を導入して施設・設備（土木・建築・機械・電気）の改築を実施する。また、併せて施設の耐震診断を行い、補強の必要な施設の耐震補強を実施する。 予定事業期間：平成19年度～平成34年度 予定事業費：32億円						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
28年度実績 汚泥処理棟の耐震補強、及び長寿命化計画に基づき、機械電気設備の改修工事を、27年度から継続して実施した。		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
29年度計画 引き続き、耐震補強事業、及び真岡市下水道長寿命化計画に基づき、施設改築事業を推進している。		ア 調査・診断委託	件	1	1	2	0	0
		イ 基本設計委託	件	0	0	0	1	0
		ウ 実施設計委託	件	2	2	1	1	4
		エ 改築工事委託	件	1	2	2	1	0
		オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 水処理センターの建物、設備		⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 耐震補強事業対象建物	棟	6	6	6	6	6
		イ 長寿命化事業対象施設	施設	12	12	12	12	12
		ウ						
		エ						
		オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 良好な処理能力の維持		⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 耐震補強事業完了建物（延数）	棟	0	1	0	2	0
		イ 長寿命化事業完了施設（延数）	施設	0	0	0	0	0
		ウ						
		エ						
		オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 快適で衛生的な生活環境づくりと公共水域の水質汚濁防止。		⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 放流先河川（五行川）の水質（BOD）	mg/L	1.7	1.5	1.9	1.4	1.6
		イ 放流先河川（西川）の水質（BOD）	mg/L	5.4	1.9	2.9	4.4	3.7
		ウ 市民意向調査「河川の水質」の「良い」の割合	%	62.3	63.7	67.0	68.3	65.3
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	29,600	144,050	259,700	338,540	22,575
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	17,400	115,395	184,493	230,600	20,318
		地方債	千円	11,000	18,105	29,787	51,080	2,257
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	58,000	277,550	473,980	620,220	45,150
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	538	498	546	546	549
		人件費計(B)	千円	2,186	2,102	2,288	2,288	2,280
		トータルコスト(A)+(B)	千円	60,186	279,652	476,268	622,488	47,430

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	水処理センターは、昭和53年度から施設の設計を開始し建設を進め、昭和58年3月に供用開始しており、年数の経過により施設の老朽化が進んでいるため、建物の耐震補強及び施設の長寿命化を実施し、良好な放流水質の維持を図ることを目的として、事業を開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成19年度から事業を開始し、日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止するため、施設の健全度の調査を行い平成25年度に長寿命化計画を策定し、予防保全的な管理を行いながら計画的な改築を実施している。 平成19年度から順次施設の再構築に係る調査、設計及び耐震診断を行い、再構築事業として、反応タンク設備、最終沈殿地整備、中央監視制御設備の工事を実施している。さらに、耐震補強事業及び長寿命化支援事業（平成23～31年度）として、管理棟、受変電・自家発電設備、汚泥処理棟、沈砂池ポンプ棟及び塩素混和地棟等の工事を実施し、施設の延命化を図っている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生活排水を浄化して排出することにより、生活環境の改善と公共用水域の水質保全に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 下水道法により、公共下水道の維持管理は市が行う。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市の所有する施設であり適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 設備を改築(更新)することにより、施設能力が回復し良好な水処理が行える。また、施設の延命化も図れる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 生活排水が適切に処理されず、公共用水域を汚濁するなど生活環境に重大な影響を及ぼす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費の削減により、老朽化した施設の改築ができず、水処理能力が低下する。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 業務を日本下水道事業団に委託し効率性の向上を図っている。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者より下水道受益者負担金を徴収している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							